

2013年12月2日

2014年の小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト XII
モーツァルト：歌劇「フィガロの結婚」
ROHM OPERA THEATER

平素は格別のご高配を受け賜り、厚く御礼申し上げます。

小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトは 2000 年より毎年、若い音楽家の教育に全力を注ぎ、大きな成果を挙げております。2014 年の小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト XII では、モーツァルト：歌劇「フィガロの結婚」を上演致します。

なお、今回はオーケストラピットが舞台に設置され、その周りで歌手が演じる新しいオペラ上演のスタイル「オペラ・ドラマティコ」を導入致します。通常のオペラとは違い、グランド・オペラが上演可能な劇場で、大掛かりなセットに頼るのではなく、凝縮された表現方法をあえて追求し、小澤征爾音楽塾独自のオリジナルステージを作り上げようとする新たな挑戦です。オーケストラと舞台を一体化させる事によって音楽とドラマが凝縮され、お客様にも集中して舞台を楽しんで頂けるものと思います。

小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトの演出と歌手の演技指導を担当してきましたデイヴィッド・ニース (David Kneuss) は、小澤征爾の音楽理念の良き理解者として、1980 年からボストン交響楽団と共にボストン・シンフォニーホールやダングルウッド音楽祭で展開された、数々のセミステージ・コンサート・オペラの演出も取り組んできました。昨年 3 月の小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト XI プッチーニ：歌劇「蝶々夫人」も 1998 年にボストンで上演されました。

小澤征爾にとって理想的なオペラとは、音楽的にも演出上も「凝縮された美しさ」を具現化することです。その実現のためには、音楽や物語 (リブレット) が持つ普遍的なテーマや表現を可能な限り作者の意図に忠実に最大限引き出し、かつ作品の上に凝縮された表現が成し遂げられる事が必要です。そこで今回考えたのが、必要としない装飾的要素を出来る限り排除し、本質を凝縮する事によって「美しい単純さ」をもって物語を浮き彫りにする、小澤とニースが長い年月をかけて培ってきた「オペラ・ドラマティコ」という手法です。

今回上演を目指している「フィガロの結婚」はオペラ・ブッフアの代表作です。オペラはその時代性に合わせて様式や手法を常に発展させてきました。しかし、その根底にあるドラマ性という本質は全く変わっていません。そこで、今回の「フィガロの結婚」においては、その本質を重視し、小澤征爾がボストンでのセミステージ・コンサート・スタイル上演において大きな成果を上げた数々のプロダクションをベースに更に舞台技術に工夫を加え、新しい時代のオペラスタイルである「オペラ・ドラマティコ」として確立し得る舞台作りに挑もうと考えております。

優秀な若手音楽家たちへ画期的な教育の場として小澤征爾音楽塾は広く認知されてきました。今回の「フィガロの結婚」ととどまらず、これから小澤征爾音楽塾は、音楽面が充実していなければ成立しない「オペラ・ドラマティコ」の上演を通じて、今後も高度な教育に取り組んでまいります。

今後とも小澤征爾音楽塾をご支援頂きますようお願い申し上げます。

敬具

広報担当：宮ヶ谷/ハーレー

ヴェローザ・ジャパン/小澤征爾音楽塾
〒160-0023
東京都新宿区西新宿 3-8-4 BABA ビル 7F
携帯：080-4731-4129
メール：pr@saito-kinen.com
URL：<http://www.ongaku-juku.com>